

人と音を結び
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
<https://clanago.com>
プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO
①舞台イベントの企画制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行
株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市中区東区2-11-22 アバンテッジビル301
TEL: 052-508-5095 FAX: 052-508-5097
E-mail: mane-pro@mane-pro.com
HP: <http://www.mane-pro.com>

松岡伶子バレエ団が創立70周年

11月30日 芸術劇場大ホールで記念公演

新国・プリンシパル迎え「白鳥の湖」

松岡伶子が主宰する「松岡伶子バレエ団」が創立70周年を記念、11月30日(午後5時)愛知県芸術劇場大ホールで「白鳥の湖」(ナターシャ・ボリシヤコフ版)を上演する。同一主宰者による「70周年」は極めてまれで、記念公演のチケットは残りわずかになっている。松岡は1934年名古屋市熱田区旗屋町で誕生。終戦後、「バレエが何



監修・松岡伶子



白鳥・小野純子



黒鳥・御杵紗也



前回(2017年)「白鳥の湖」出演者

立ち上がり、ピアノに突き動かされ

ジャンソンの扉

200 佐藤 奈菜

クラシック、ポップス、ジャズなど幅広いジャン

ルを弾く佐藤奈菜。ピアノには3歳から触

れていたが、大きかったの大学院終了後に聴いた

ピーター・アデル。「自由でエレガントで個性豊

かな音楽。70代からフレックした彼女を知り、

自分の夢は80歳を超えてもピアノを弾き続けるこ

とになった」と話す。



「元気になる演奏を」と語る佐藤

自身の演奏は「体が小さいので、熱が入ってくと立ち上がって弾くことも。ピアノに突き動かされて、自分も観客も元気になる演奏」と話す。

作曲を始めたのは7年前。「偶然街で女性が理不尽な目に遭いショックを受けている姿を見て傷ついている人、悲しんでいる人を癒やしたい」という。

エルムは、観客として好きな場所。「集中して音楽、心を聴ける空間」と話す。

「多くの人に癒しを届けたいので、曲がいろいろな場所であらうれしい。今もピアノが楽しくなり続けているので、健康に80歳を超えてもやりたい」と笑う。

(聞き手・竹本真哉)

かも知らぬまま「鶴舞公園近くに開設された稽古場に通うようになった。高校卒業後、東京の「谷桃子バレエ団」に入団。54年には名古屋に教室を開設し、56年に旧中小企業センターで「松岡伶

子バレエ団」として第1回の公演を行った。バレエ団は復興の時流

名古屋市中区東区上社3-1903
☎052-739-6155
OPEN 11:00-19:00(水曜日は17:00まで)

「歌手・奥村晃平、作曲家・ブラームスの作品に魅力を感じていただければ本望です」。11月22日(午後2時)電気文化会館でスペシャルリサイタル「ブラームスの歌曲」を開催する。

パティン奥村晃平 スペシャルリサイタル

11月22日 電気文化で「ブラームスの歌曲」



奥村晃平(パティン)

「四つの厳粛な歌」は、ブラームスが密かに愛したクララ・シューマンに捧げた愛の歌。「リサイタルの核心として全精力を込めて歌い上げたい」と意気込む奥村だ。

ピアノ演奏は、ドイツ人の父、日本人の母から誕生したマリオ・ヘリングで、奥村とは初共演になる。歌曲はすべてドイツ語だが、字幕ではなく、音楽家で俳優の荒川洋子がナレーターとなり、それぞれの曲に込められた作家の思いを語り上げる。

全自由席4000円(当日5000円増し)。TEL0570(00)

さて記念公演「白鳥の湖」は、66年にバレエ団初の全幕ものとして愛知文化講堂で上演した思い入れ深い作品。今回はオデット姫に小野純子(新国立劇場)、ジークフリート王子に奥村康祐(同)を迎え、松岡伶子の監修、松岡璃映、市橋万樹の再振り付けで上演する。

共演は御杵紗也(オデット姫)、碓氷悠太(悪魔ロットバルト)、南野高廣(道化)、パド・トロワの山下実可、兵藤杏、竹中俊輔ら総勢74人が出演する。演奏は稲垣宏樹・指揮の中部フィルハーモニー交響楽団。

チケットは、残数わずかのため、バレエ団TEL052(0633)53660まで問い合わせを。

5310(アイ・チケット)。

定期演奏会「安寧への祈り」の2つのミサ曲を通してを開く。曲目はゴダードが第二次大戦中に避難所で書き上げた「ミサ・プレヴィスト」と、四声の独唱が加わるベートーヴェンの「ミサ曲ハ長調」。管

BALLET・NEXT 2026

夜之部 百花繚乱 之を
昼之部 花鳥風月 之を

作 市川 透

2026年1月18日(日)

昼 花鳥風月 開場 11時30分 開演 12時00分
夜 百花繚乱 開場 16時00分 開演 16時30分

アマノ芸術創造センター名古屋

A席8,500円(1階指定席) B席6,500円(2階自由席) ◎当日券 全席500円UP

◆チケット発売期間/2025年11月1日(土)~2026年1月15日(木)
◆チケット取扱/チケットぴあ(Pコード/537-632)、セブンイレブン BALLET・NEXT公式ホームページ

TEL/FAX 052-779-0756 Mail: bn-info@studio-move.net

後援: 愛知県文化振興事業団 名古屋市文化振興事業団

ロマン派の巨匠
ブラームスの歌曲
スペシャルリサイタル

2025. 11.22(土)
14:00開演

ザコンサートホール
名古屋・伏見・電気文化会館

全自由席(税込)
4,000円
当日: 4,500円

愛の歌 わが妃よ、そなたはなんと永遠の愛
朝とセレナーデの歌 日曜日 セレナーデ
少女の歌 少女の罵り お前の青い瞳
ブラームスの至宝の歌 「四つの厳粛な歌」ほか

パティン | 奥村晃平
ピアノ | マリオ・ヘリング
語り | 荒川洋子

プレイガイド
アイ・チケット 0570-00-5310 <https://clanago.com/i-ticket>
芸文プレイガイド 052-972-0430

かやの木芸術舞踊団 かやの木芸術舞踊学園
創立55周年記念公演
小椋 佳 音楽による 和太鼓ミュージカル

Ponta

あゝ 感動が今ふたたび...

1997年初演 国の児童文化財 認定
小椋佳作詞作曲による和太鼓のあるミュージカル「Ponta」
ためきの「Ponta」と主人公「リン」との心温まるストーリー
「神打ち」という和太鼓をめぐる「友情」や「人を思いやる」といった今の時代に大切なメッセージを訴え掛けます

25.12月13日(土) 公演① 16:30~
14日(日) 公演② 10:30~ 公演③ 15:30~

チケット 全自由席 ¥6,000 (当日¥6,500)

可児市文化創造センター・アール 好評発売中!

【問い合わせ】 かやの木芸術舞踊学園公演事務局 ☎0573-65-3702
〒508-0045 中津川市かやの木町4-17 <http://www.buyou-kayanoki.com/>

今井 智景 クロスバウンダリー

「ルネサンスハープの革命」

12月6日 愛知県芸術劇場

愛知を拠点に国内外で活躍する現代音楽家・今井智景による「クロスバウンダリーXIII ルネサンスハープの革命」が12月6日(午後2時30分)、県芸術劇場小ホールで開催。

「クロスバウンダリー」は音楽を通して新しい領域と出会い、境界線を広げる機会を作るレクチャー&コンサートシリーズ。毎回一つの楽器に焦点を当て、名曲や新作の演奏と斬新な映像・美術で魅力を伝える。

第13弾は、16〜18世紀に活躍したイタリア生まれの歴史リカル・ハーブ「アルパ・ドッピア」。

11写真11を、ドイツから奏者を招き紹介する。今井を含めた現代の作曲家4人が、古楽器の新たな可能性を引き出すことに挑戦。今井は「アンティークの再生とイノベーション」と位置付けている。

出演は、今井、マクシミリアン・エアハルト(ヒストリカル・ハーブ)、小原道雄(チェンバロ)。映像製作は稲田優太。

一般2500円、学生1500円、未就学児入場不可。 <https://crossboundary13.peitix.com>

ミュージカル

キミのために散る

「キミを愛した 偽りなきときに、悔いはない」
青年は、なぜ「回天」に乗ったのか— (大原典博)

原作・作詞:あおい英斗
作曲・編曲・指揮:宗川諒理夫
上演本・演出:田尾下智

5日(土) 18:30開演 (18:00開場)
6日(日) 15:00開演 (14:30開場)

会場:メニコンシアターAoi
愛知県名古屋市中区葵三丁目21-19 Menicon Theater Aoi Bld.内

チケット料金(税込) [全席指定]
一般 前売 6,000円 / 当日 6,500円
高校生以下 3,000円 (前売り・当日ともに)

メニコンビジネスアシスト(MBA) イベント・クリエイション部
Tel.052-935-1630 受付時間 平日10:00~18:00

度肝を抜いた石原弘恵の『全身全霊』

ダンスパラダイス

『全身全霊』という言葉を、私はこれまで安易に使ってきませんでした。石原弘恵のソロダンス「死の舞踏」を見てそう思った。現代舞踊協会中部支部の設立70周年記念公演「ダンスパラダイス」(9月15日、芸術創造センター)で

「道をひらく」も力があった。この二人とは対照的な、ソフトで愛くるしいダンスを披露したのは桂井美代代・望早の「カーペディアム」。8人のダンサーが、羽化(うか)したばかりの蝶のように可憐に舞った。

石原の盟友・荻谷夏の「道をひらく」も力があった。この二人とは対照的な、ソフトで愛くるしいダンスを披露したのは桂井美代代・望早の「カーペディアム」。8人のダンサーが、羽化(うか)したばかりの蝶のように可憐に舞った。

踊りながら語り合う奇抜な演出

若手では石川雅美門下の西川海亜、生田万莉絵、河合瑛美が堅実なダンスを見せた。東京から参加した11人の熟年女性グループ「チェリーズ」はコミカルなダンスで観客を湧かせ、地元のベテラン4人組も負けじと健在ぶりを発揮した。(上)

ゆらゆらクネクネと動きながら、せりふを語る6人は、どうやら審査員らしい。「ダンスはダンサーのものか、あるいは振付家のものか」「ダンスを演じるのは液体である」「ダンスは液体である」などと論議は白熱する。やがて「作品が」良いか悪いか分らない時、審査員はこうすればいいのかが本音が出たところで、彼らの正体が明らかになる。6人は審査員ではなく、審査を受けるグループだったのである。(野)

新作挑戦! 意欲を見せた宗家寿子

内田流舞踊会

日本舞踊内田流(家元・内田有美)の第72回「舞踊会」(10月5日・市民会館ビレッジホール)で、2題の面白い作品に出合った。内田流り千鶴の「天神さん」と、宗家・内田寿子の創作「寂く建礼門院」だ。

前者は一奏(ひとかな)と称されるジャンル作品。タヌキの「勘違い」をコミカルにつづったもので、るり千鶴は囁る線路の素晴らしさ。5人の術(てら)いのない歌声は、ストリートに私の胸に突き刺さった。後半は原爆が投下された後の壮絶な市街地の描写が展開された。しかし

終演後に強く印象に残ったのは、悲惨な被爆の情景ではなく、5人の少女たちの清純な魂と、ひた向きで逞しい生命力だった。実に巧みな川村の演出だった。(茂)

公演後、お母さまが目をして私自身も、彼女たちの姿から多くのことを学ばせてもらいました。(川村ミチル)

純朴な演技と清純な歌唱に感動

劇団天白月夜

純真無垢な5人の少女、胸に染みる岡田健太郎の音楽。作・演出の川村ミチルが、原爆投下された広島を斬新な切り口で劇化した。劇団天白月夜

夜の第7回公演「青空の向こう」で、こころんチンチン電車を走らせた女学生(9月27、28日・天白文化小劇場)である。運行中に被爆した広島の市電を運転していたのは、次々と戦地に召集される男子に代わり訓練を受けた広島電鉄家政女学校の生徒だった。物語の前半は、運転十貫習いの5人の生徒によってコミカルに繰り広げられる。演じたのは安田萌、玉

ダンスケイト(バレエ&ダンス用品) ~ 移転しました ~

オンライン

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-15-23 10階(1015号) ネイオンスマンション栄公園10F

出演者トーク

川村ミチル

公演後の打ち上げで、女学生役の子たちが涙を流しながら、自分の言葉で想いを語ってくれました。その中には、小学生の頃から

振付家のものか」「ダンスは液体である」「ダンスは液体である」などと論議は白熱する。やがて「作品が」良いか悪いか分らない時、審査員はこうすればいいのかが本音が出たところで、彼らの正体が明らかになる。6人は審査員ではなく、審査を受けるグループだったのである。(野)

現代の世界情勢に重ね合わせて描出した。寿子が新作を踊るのは久しぶりのこと。衰えぬ意欲と年輪とともに深みを増した表現力に感心した。また今公演は照明が巧みだった。吸い込まれるような、これまで感じたことのない凛(りん)とした明かりだった。



体は熱く、心の奥底は冷えていく

エネミー・オブ・ザ・サン

国際芸術祭「あいち2025」は、開幕から優れた作品が相次いだ。パベル・アッバス&ルアン・アプラーメが、新栄のクラブを会場に行った「エネミー・オブ・ザ・サン」(9月13、14日)は、強く記憶に残った。



パフォーマンスを披露。出演予定だったハイカルは、米国から出国できずオンラインで音楽と意思を届けた。

アッバスとアプラーメは現代美術展にも参加。クラブや美術館のような異なる文化空間、そこに集う多様な人々全てにリーチし、リアルを伝え、忘却に抗おうとして響くことを切に願う。(竹本)

脳と肉体の捻れた関係性を体現

態変「ブレイン」

国際芸術祭「あいち2025」で、態変が「ブレイン」を上演(芸術劇場小ホール、9月26、28日)。メンバー全員が身体障者である態変は、這いつくばる身体表現で、見る者の美意識や価値観を揺さぶってきた。



エネミー・オブ・ザ・サン(撮影・相模友士郎)



態変「ブレイン」(撮影・相模友士郎)

今回のテーマは脳。その指令から外れてしまうという彼女らの肉体で、脳と身体が捻じれた関係性の来歴を描き出す。

太古の海での生命や意識の萌芽、陸地へ上がる肉体的変化などを次々に表現。ダンスの動きや意志を込めた視線は、生命はもろろん海の深さ、死の

旅立つための祝祭だ。

奥い、膨大な時間まで雄弁に伝えていく。

さらにAIが人間の生活の隅々まで影響を及ぼす世界の中で、生命の尊厳を問いかける。高い位置から管理するような無機質なCGの映像は、舞台上に積み重ねてきた歴史を冷たく見下ろす。しかし身体は地にありながら、AIの檻から宇宙にまで解き放たれていく。

探求の果て、AIそして脳との関係すら破壊し、身体が泥にまみれるラストは強烈。それは太古の生物へ戻るのではなく、人間の生命が次へ旅立つための祝祭だ。

ドラマを見るような久保田の歌唱



久保田道子(ソプラノ)

は2000曲を超える。今回のプログラムは38曲。歌詞はすべて日本語である。この曲も大中の作品だったのか...「大中はこんな曲も書いていたのか...」。彼の

の偉大さを改めて実感した。日本語で歌うのだから、曲に込められた作家の心情を明確に伝えてほしい。それを最も的確に表現したのは、名古屋在住の作曲家・山岸千代栄による「初めての恋」海

の息子を送る母の心情が切々とつづられる。久保田の歌唱には、ドラマを見ていような説得力があった。

二期会のレジェンド山口雅子が歌った「トルコ枯梗」には、若い女性の恋心が凝縮された。さすがの歌唱、さすがの(大中の)名曲である。

美しく揺れる深遠なヴォイス



名フィルと共演する青木

能音楽・青木涼子

近ごろ、家人が謡(うた)の稽古を始めた。おかいと現代音楽を融合させ

げで私も能に関心を持つようになった。そんな折、名フィルが定演(9月5日・芸術劇場コンサートホール)で小出雅子

作曲「Junction on」(世界初演)を出した。ソリストとして登場したのが青木涼子。謡(うた)と現代音楽を融合させ

た新ジャンル「能音楽」を立ち上げ、世界的に活動を展開する才人である。小出によれば「Junction on」は、能の「定家」朝吹真理の短編小説「植物人間」の3作に共通する「虐げられた女性」がモチーフとか。謡と管弦楽だけでなく、朗読やラジオのチューニング

愛知県立芸大7人の教え子と共演



ディーナ・ヨッフエ

音楽である。

私に理解できたのは、青木の美しく深遠なヴォイス(謡)。艶やかな揺れを伴い、低く地を這う独特の唱法は、一級のオペラ歌手にも匹敵する魅力があった。青木のステージを見て、能に興味を持つ人が増えるかも。

何より驚いたのはヨッフエの音の美しさと、演奏者によって変化するピアノの音色である。発見もあつた。県立芸大でクラシックを学び、米国バークリーでジャズを学んだ風呂矢早織の挑戦的な演奏。この日はモーツァルトの「ピアノソナタを自身

の「ピアノソナタ」を後輩の大塚宏美さん、風呂矢早織さんと。リサイタル前後の合わせは忙しかっただけれど、本当に楽しくできました。いろいろな発見もありました。

出演者トーク



稲熊佐江子

世界的ピアニストと7人の学生の共演である。舞台上にはカワイ提供の超高級ピアノ「SKERX」が2台。ヨッフエと共演したのは稲熊佐江子、福永真弓、石川馨菜子、松下寛子、大塚宏美、塚原久美子、風呂矢早織。各手の指導を受け、花開いたピアニストたちである。

世界的ピアニストで恩師のディーナ・ヨッフエ先生と、県立芸大時代の門下生で2台のピアノを演奏するコンサート。3度目の今回も参加させていただきます。

間奏曲

室内楽集団「レーベイン」が、12月22日(午後2時、6時30分)、アーク栄サロンホールで、ベートーヴェンの室内楽全曲シリーズ第1回を開く。

いよいよベートーヴェン室内楽

家でも室内楽は限られた作品しか聴く機会がない。数十年前聴いてきた私も生で初めて聴く曲が少なくない。以前のグループ「アンディアー」の時代からラヴェル、ブラームス、フォーレ、シューマン、プーランクときて、いよいよベートーヴェンか、と期待

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

- 青山 皆江 蟹江 尾八 戸田美江子
秋田 昌子 神谷久美子 中川 幸作
荒川 洋子 北村 哲也 仲条 優理
飯田 光代 工藤 幸久 夏目 久子
出田 光代 佐藤 典子 名鶴ひとみ
伊藤 修 佐藤美智子 西川 長秀
伊藤 敬 佐野 和美 野々山保治
伊藤 直樹 澤脇 達晴 野村 祐子
稲垣 舞比 白樺 八重 花咲 市岡
衣斐 愛 五右衛門 花柳 馨優
今村 早伽 杉江 瑞美 林 雅仁
内田 寿菊 鈴木 幾子 福井 啓子
内田 寿千代 鈴木久美子 瀧本晴都子
内田 寿晴 鈴木 文雄 松本 道子
内田のり子 須山 仁美 松本 道子
内田のり美 角田真優美 見波 紀子
大寺 資二 高倉 麻耶 宮西 圭子
岡田 一男 武市 孝三 山口 雅子
岡崎 保彦 竹元まき子 吉田 尚弘
小倉ひろこ 田淵友佳理 よしみゆうこ
小野由加利 玉田 弘子 渡部 千枝
加藤 静子 つつみあつき ほか
金澤 志保 手塚 淑子 ほか

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6600円(税込)。会員には小紙を毎月お届けするほか、紙面に名前を掲載(希望者のみ)。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。【お申し込み、お問い合わせ】(株)マネージメント・プロ TEL 052(508)5095 郵便振替口座 00880-6-206130

齋藤華香 KAKO SATO
Flute Recital

11.24 月 14:30
15:00
熱田文化小劇場

プログラム
「18世紀の音楽」Op.117
「19世紀の音楽」Op.118
「20世紀の音楽」Op.119

中川 朋子 Tomoko Nakagawa
Piano Recital

12.12 2025
19:00開演 (18:30開場)
ザ・コンサートホール

プログラム
「18世紀の音楽」Op.117
「19世紀の音楽」Op.118
「20世紀の音楽」Op.119

DIVA CHRISTMAS CONCERT
Musica Nuova JAPERA

2025年12月13日(土) 14:00開演 (13:30開場)
大ホール 料 ¥5,000 (税込 ¥5,500) 小ホール 料 ¥2,000 (税込 ¥2,200)

ザ・コンサートホール



上原宏の
☆音楽☆
聴き歩き

岩間美奈「マリンバのリサイタル」(8月28日・HITOMIホール)は、マリンバの可能性を追求した。



奏法を駆使し意欲的な演奏で魅了
マリンバ 岩間美奈

ANA CROWNE PLAZA AN INDO HOTEL HOTEL GRAND COURT NAGOYA

— デビュー 50周年記念 —
千住 真理子
クリスマスディナー
コンサート2025
(ピアノ: 山岡 智)
(ソプラノ: 野々村 彩乃)



恒例の石川馨栄子ピアノリサイタル(10月4日・電気文化会館)。今回はリストとショパン、同時期にパリで活躍した二人に焦点を当てた。

各曲の特色を明快に弾き分けたのを3つ。それぞれの特色を分かりやすく弾き分けた。

さまざまな奏法で、ジェイコブ・ドランクマン「水の反映」は印象派のような響きが魅力的だった。

名器が紡ぐ甘美な旋律

歴史的な名器ストラディヴァリウス「デュランティ」との出会いから23年。ヴァイオリニストとしてデビュー50周年を迎える千住真理子の、滑らかで美しく心満たされる調べを。

オープニングはソプラノ野々村彩乃が華やかに飾ります。ホテル特製ディナーとともに心行くまでお楽しみください。

2025.12.21(日)

受付 5:00p.m. / 食事 5:30p.m. / コンサート 6:45p.m.

〈会場〉7F大宴会場「ザ・グランコート」◎会場内は禁煙です。

〈料金〉**¥23,000** (洋食コース料理・フリードリンク・税金・サービス料込)

〈曲目〉
○黒人霊歌: アメイジング・グレイス ○JSバハ: G線上のアリア
○カッチーニ: アヴェ・マリア ○デ・クルティス/千住 明雄: 滞れソレントへ
○カタロニア民謡: 鳥の歌 ○モンテ: チャルダッシュ
○クラウザー: 折る女<マルティニ>の模式による>
○ドヴォルザーク/クラウザー編: 我が母の教え給いし歌
○アイルランド民謡/クラウザー編: ロンドンデリーの歌
○プッチーニ: 歌劇「トスカ」より「星はきらめき」
○トーム&ウェルズ/千住 明雄: ザ・クリスマス・ソング

※都合により曲目・曲順等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※金額高定。※写真・ビデオ撮影および録音はご遠慮ください。※来賓様のお子様はご入場いただけません。
※ご予約後のキャンセル・返金はお受けいたしません。

協力: クラシック名古屋

▶ホテルWEB先行予約 2025.9.10(水) 10:00a.m.~販売開始
ホテル公式サイトからのご予約はこちら

▶アイ・チケット予約 2025.9.10(水) 10:00a.m.~販売開始
Tel.0570-00-5310 https://clanago.com/i-ticket

▶お電話でのご予約・お問い合わせ 2025.9.17(水) 10:00a.m.~販売開始
Tel.052-683-4445 (宴会イベント係 10:00a.m.~6:00p.m.)

ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋
〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1 Tel. 052-683-4111 Fax 052-683-4121
www.anacrowneplaza-nagoya.jp



最後のケヴィン・プッツ作品はヴァイオリン猪子奈津子、クラリネット滑川敬一との三重奏。繊細な序盤から後半の高まるクライマックスまで息詰まるようなアンサンブルで聴き心えがかった。

「フィンランドの音楽」フィンランドの音楽「フィンランドの音楽」

無限大の響き
師弟を超えた魂のセッション

キリル・ゲルシュタイン
藤田真央
ピアノ・デュオ・リサイタル

12/5(金) 開演 18:45 (開場 18:00)
愛知県芸術劇場コンサートホール

料金 全席指定 ¥15,000 (税込 ¥16,500)
S席 15,000円 A席 9,000円 B席 6,000円 U25席 3,000円

二軒発売 8/5(水) 10:00~

チケットのお取扱い
●アイチケット https://clanago.com/i-ticket
●e+ (イープラス) https://eplus.jp
●チケットぴあ https://pia.jp
●e+ (イープラス) https://eplus.jp
●e+ (イープラス) https://eplus.jp

弦楽六重奏によるクリスマスコンサート ~愛のクリスマス~
2025

古澤 巖 Iwao Furusawa
ベルリンフィルハーモニック
ストリングス Philharmonic Strings Berlin

2025年12月10日(水) 電気文化会館 ザ・コンサートホール
開場 18:30 開演 19:00 全席指定 ¥10,000 (税込)

Yuka Asano
浅野佑佳 Piano Recital

2025 12.17
ザ・コンサートホール

包原麻依子 Mako Kanehara Piano Recital
シュベルト
幻想への旅路

2025 12.18(木) 19:00開演 (18:30開場)
ザ・コンサートホール

田所光之 Mitsunori Tagami Piano Recital
Nocturne & Etude

2025 12/20(土) 19:00開演 (18:30開場)
ザ・コンサートホール

匂坂実佳 Mika Sagisaka Piano Recital
ピアノ・リサイタル

12.25(土) 18:45開演 (18:15開場)
ザ・コンサートホール

奏でる人を聴きたい人へ 人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル1F

クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット 0570-00-5310
(11:00~16:00 ※土日祝休)

アイ・チケット 検索

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが丁寧に対応いたします。ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。